

第 35 号

正福寺報

平成 28 年お盆号

臨濟宗 円覚寺派
住職 松原 行樹
TEL 045-811-3800
FAX 045-811-6304
shouhukuji@nifty.com

〒245-0053 横浜市戸塚区上矢部町 3 4 0

<http://shouhukuji.com/>

おかげさま

正福寺住職

松原 行樹

ぎょうじゅ

詩人の高田敏子さんは若い頃、孤独感から自殺を図ろうとしました。そのときのこと次のように述懐します。

「お風呂に入って体を清め、肌着も下着も全部取り替えて、そして最後の化粧をするために鏡に向かいました。フツと気がつくと、この間切ったばかりの髪の毛がもう伸びている。爪が伸びている。私の心は死のうと思っています。私の体に寒さや外敵から守ろうとしてくれている。その髪や爪は私が作ったのでも、買ったものでもない。父の、母のそしてまた先祖の願いが髪の毛となり、爪となって私を守っていてくれているのだということを感じ、改めて鏡の中に映る自分の顔を見て、ああ、

良かったと思いました」

そもそも私たちの体、皮膚、髪の毛、ありとあらゆるものは、両親をはじめ、遠いご先祖から連綿として受け継がれてきたものです。髪の毛一本、爪一枚、自分のものではありません。自分の両親の願い、そしてご先祖の願いが自分の中に宿っているのです。

死のうと思ったけれど、鏡の前に向かうと、自分の都合に留まることのない、今こうしているのちがあり、生きて生かされている“おかげさま”にお気づきになったのでしょうか。

平生の日暮らしの中で、私たちは目に見えるものから、目に見えないそれらに至るまで、多くの“おかげさま”をいただいています。いまここに自分がいることに、いったいどれだけ多くの方々が関わってくれたことでしょうか。少しでも“おかげさま”を感じて過ごしていきたいものです。